

2023年5月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月の基調判断は、「緩やかに持ち直している」と、前回と同様の判断です。11か月連続の判断据え置きとしました。
- 需要項目ごとの判断も変更はありません。
- 雇用についても前回と同じ判断です。対面型サービス業を中心に人手不足感は強く、労働需給は、全体として緩やかに改善しています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、4月、増勢が鈍化しつつも、5か月連続で前年を上回りました。衣料品は、外出や旅行需要の回復を受け、持ち直しが続いています。食料品は、節約志向がみられる中でも値上げの効果等から、底堅い動きとなっています。大規模店舗では、引き続き、インバウンドの来店客がみられたこともあり、売上は堅調に推移しました。一方、家電販売は、需要一巡からエアコンの販売が大幅に減少し、全体でも弱めの動きとなっています。
- 新車登録台数は、4月、軽自動車、除く軽とも前年を上回ったことから、合計でも前年を上回りました。合計は、4か月連続の前年比プラスです。メーカーからの完成車供給は、国内向け出荷の増加等により、引き続き、改善がみられています。

一方、販売地合いは、このところ弱めの動きとなっています。新型車の受注は好調ですが、人気車種の納期の長期化やモデルチェンジ前などを理由とした新規受注の停止がある程度影響しているもようです。こうした中で、受注残はこれまでの蓄積もあり、高水準で推移しています。

■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、4月、全ての空港で前年を上回ったことから、全体でも前年を上回りました。4月まで19か月連続の前年比プラスです。コロナ前の2019年水準を下回っていますが、旅客数は回復が続いています。この間、旭川空港の国際線は、4月、定期便、国際チャーター便ともにゼロとなり、2か月連続でゼロとなりました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、4月、前年を幾分下回りました。地域差がみられているほか、全体としてコロナ前の2019年を下回っていますが、旅行需要が回復する中、インバウンドの回復や「全国旅行支援」による下支えもあって、基調として緩やかに持ち直しているとみています。旭川市内のホテル客室稼働率は、4月、前年を幾分下回りました。こちらもコロナ前の2019年の水準を下回っていますが、緩やかに持ち直しているとみています。
- 各地観光施設の入込みは、4月は、旭山動物園、博物館網走監獄、利尻・礼文フェリーが前年を上回ったものの、層雲峡が前年を下回ったほか、ウトロ温泉が前年を大きく下回ったことから、合計でも前年を下回りました。引き続き、コロナ前の2019年の水準を下回っていますが、観光需要の回復を受けて、基調として緩やかに持ち直しているとみています。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、4月、上川、宗谷、オホーツクとも前年を下回ったことから、全体でも前年を下回りました。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、4月、持家、貸家が前年を下回ったものの、分譲が

前年を大きく上回ったことから、全体でも前年を上回りました。月によって振れはありますが、基調としては、持家が減少している一方、貸家は下げ止まりつつあり、分譲は横這い圏内の動きとなっています。

■雇用

- 労働需給は、緩やかに改善しています。有効求人倍率は、4月、旭川、稚内、北見、網走の全てで前年を下回りました。稚内、網走が1倍を上回ったものの、旭川が1倍を下回り、北見が1倍丁度となったことから、全体でも1倍丁度となりました。新規求人数は、4月、稚内が前年を上回ったものの、旭川、北見、網走が前年を下回ったことから、4つの職業安定所の合計でも前年を下回りました。

■今後のポイント

- 当面は、値上げが続くもとでも、消費が底堅く推移しているほか、観光もインバウンドの回復に加え、全国旅行支援による下支えもあって、全体として緩やかに持ち直していくとみられます。ただし、物価上昇が続くもとで消費者の節約志向が一段と強まる可能性や、対面型サービス業における人手不足の影響など、引き続き、下押しリスクがある点には留意が必要です。

今後、道北地域の経済をみていく上でのポイントとしては、①人流回復や夏場のハイシーズンに向けて需要拡大が期待される観光、消費の動向、②物価上昇が消費者行動や企業収益等に与える影響、③対面型サービス業等における人手不足の消費や物価への影響、について注意を払いたいと思います。

以 上